

# 2013年ユース大会参加者資料

## 1

### ユースという時期

全体グループで下記の文を読んでください。第一段落を読んだ後、提起されている問いについて話し合ってから、次を読み進めることが必要かも知れません。

ユースという世代はいつでも、独自の特性を持っており、生活はある特定の勢力によって影響されています。このセッションでは、この大切なテーマについてグループで考えてみましょう。自分の世代は社会においてどのような役割があると、みなさんは考えていますか。みなさんが個人として、集団として取る行動はどのような気高い動機によって動機付けられているでしょうか。

今回開かれるユース大会には、異なる年齢層の、様々な経験をもつ若者が集まります。その多くは十代で、学校・家庭・地域社会での生活を通して、大人としての義務を果たす準備をしています。もう少し年長で、大学生や社会人、既婚者や、あるいはこれから家庭を持つとしている人たちもいるでしょう。また、社会的な状況が理由で、通常ならばもっと年上の人が担うような責任をすでに負い、家族を扶養している人もいるかもしれません。参加者の住む場所も同じく多様で、小さな村や何百万もの人口を抱える大都会など、世界中のさまざまな場所から来ています。

自分の住む社会の状況が何であれ、ユースは精神的・知的成長を遂げることを目指し、「人類の幸福に貢献する」ことを願っています。ユースは素晴らしい能力を多くもっていますが、その能力を適切な方向に向けることは重要です。なぜならば、素晴らしいユースのエネルギーも、方向付けを間違ったり他者に操られたりすると、深刻な社会問題につながるからです。世界には、バハオウが描いた、精神的にも物質的にも繁栄した世界のビジョンを真剣に捉えているユースもいます。トレーニング・インスティテュートのプログラムに参加することによって、ユースは、自分が奉仕の道を歩んでいると見ることができます。この道を歩みながら、バハオウの教えを社会生活に応用する能力を高めています。また、アブドル・バハが述べたように、「世界共通の利益のために奉仕することよりも気高い」<sup>2</sup>行動はこの世にはないことを、また「最も正しい行い」<sup>3</sup>は「大衆への奉仕に立ち上がり、精力的に身を尽くすことである」<sup>4</sup>ことを知っています。

無私の気持ちで社会に貢献しようと努力することで、個が人として成長するだけでなく、その人の社会発展に貢献する能力も向上することでしょう。「人類への奉仕は神への奉仕である」<sup>5</sup>とアブドル・バハは強調しておられます。奉仕に立ち上がった者に対して、アブドル・バハは、こう励ましておられます。「御国の愛と光が、あなたを見るすべての人々に反射され、照らされるまで、あなたの内に輝くようにしなさい」<sup>6</sup>、と。自分たちの才能や能力を社会の改善へと向けることにより、奉仕に立ち上がる人は、「創造界の平穏をもたらすのです」<sup>7</sup>。他者に寛大に与えるという気持ちで日々を過ごし、他者の福利のために自主的な行動を起こすことにより、ユースは、神からの援助と確証を引きつけます。

ですので、人生で最も能力が開花する時期にいる若者たちが、社会への「奉仕に身を捧げる覚悟をする」<sup>8</sup>こと、そしてその数が増えることが不可欠です。当然、ユースは多くのことに時間とエネルギーを使わなくてはなりません。教育、仕事、娯楽、精神的な生活、身体的健康などです。しかし、人生の様々な側面の中にあるつながりを見落とし、人生を断片的に捉えることがないよう気を付けなければなりません。そのように人生を断片的にとらえると、人生が二者択一であるかのように感じられ、悩んでしまうことになりかねません。勉強と奉仕のどちらを選ぶのか、物質的に豊かになる道と他者の幸福になる道のどちらを選ぶのか、就職とボランティアのどちらを選ぶのか、等の悩みを聞いたことはありませんか。このような偽の選択肢におちいり、人生を一貫性のある一つのものとして捉えることが出来ないと、不安になったり、混乱したりします。奉仕を通して若者は、多様な局面が互いを補足し合う人生を歩むことが出来ます。

奉仕に立ち上がる者には神が必ず祝福を下さると確信し、家族、同年代の仲間、学校、職場、情報社会、地域社会などの他者と関わる環境を見て、ユースはそこに作用する社会的勢力を認識します。真理への愛、知識への渴望、美しいものに惹かれる気持ち...、これらは、ユースが奉仕の道において進歩するよう駆り立てます。一方、物質主義の蔓延や自己中心的な態度などの勢力は破壊的で、若者の世界観を歪めることにより、個人的・集团的成長をも妨げます。より良い世界を築く運動へのユースの貢献が前進するにつれ、文明を築く者に必要な、精神的・社会的勢力を味方につけ、それらと協働する能力も大いに高められます。

上記の各段落で提示されている考えについて話し合ってから、小グループに分かれ、下記の問いについて考えてください。

- a. 自分の住んでいる地域社会について考え、みなさんがユースとして他者と関わる環境を特定してください。これらの環境では、どんな肯定的な勢力があり、あるいは否定的な勢力がはたらいていますか。これらの空間が、あなたにどのように影響しているか描写してください。
- b. 上記の文章は、奉仕が個人の精神的・知的成長と、ユースの社会進歩に貢献する能力に及ぼす、肯定的な影響を強調しています。自分の精神的・知的成長と、社会変革への貢献という二重の道徳的目的について、できるだけあなたの地域社会から例を挙げ、話し合ってください。
- c. 上記の文章はユースが一貫性のある人生を送ることの重要性を強調していますが、それにあたり、勉強か奉仕か、自己改善か他者の幸福への貢献かといった問いを「偽の選択肢」と呼んでいます。なぜ、これらは偽の選択肢なのでしょう。このような問いは、どのようにして若者を麻痺させますか。避けるべき、偽の選択肢には、他にどのようなものがありますか。

---

1万国正義院から世界中のバハイにあてられた手紙、2013年2月8日、第4段落

2 アブドル・バハ、「聖なる文明の秘訣」

3 同上

4 同上

5 アブドル・バハ、「万国平和の普及」

6 同上

7 アブドル・バハ、「アブドル・バハ書簡選集」

8 万国正義院から世界中のバハイにあてられた手紙、2013年2月8日、第4段落

## 2013年ユース大会参加者資料

### 2

#### 青少年期（ジュニアユース期）

全体グループで下記の文を読んでください。第一段落を読んだ後、そこで提起されている問いについて、いったん話し合ってから、次を読み進めるとよいでしょう。

大会の第一セッションでは、ユースであることに関連する重要な概念について話し合いました。その一つは、若者に影響を及ぼす、建設的及び破壊的な社会的勢力でした。次のセッションでは、人生の中で特別な時期である青少年期について考えましょう。この年代のユースのことを、ここではジュニアユースと呼びます。ジュニアユースには、「社会を変革させる能力があふれて」おり、ジュニアユース期は、その能力が「解き放たれるのを待つ<sup>9</sup>」ている時期です。この年齢層が特別なのはなぜでしょう。

12歳から15歳までの期間は子どもがユースへと移行する時期ですが、この時期にジュニアユースは肉体的にも、知力的にも、情緒面においても急速に変化します。精神的な力も増します。意識が高められ、深遠な問いに関心を持ち、自分自身の才能や能力に対する興味が深まります。アブドル・バハは、ジュニアユースについて「観察力は広がり、深まり<sup>10</sup>、知力は「鍛えられ、目覚める」<sup>11</sup>と述べておられます。この三年間という、短いけれども非常に重要な時期に、人生を方向付ける基盤となる個人と社会に対するもの見かたが形成されます。しかし、新しく現れる能力に対する喜びと同時に、しばしば不安や不快感や疑念といった気持ちも混在し、それらの感情によって行動の矛盾が生じることもあります。したがって、この時期に、新しい能力を人類への無私の奉仕に向ける必要性があるのです。適切な指導を受け、力を存分に伸ばせる環境が必要であり、そうでなければ、彼らの「資質は、自我という汚れた空気に抑えつけられる」<sup>12</sup>のです。

ジュニアユースに対する考え方の中には、この時期を肯定的に捉えないものもあります。たとえば、この時期は混乱と危うさに満ちている、という考え方はとても一般的です。そして、そのような考え方は、好ましくない行動パターンが更に広がる状態を助長しています。この年齢層をもっと適切に捉えるなら、ジュニアユースは「敏感な正義感、森羅万象について学ぶ熱意、よりよい世界を建設することに貢献したいという願望」<sup>13</sup>を持つ、私心のない若者たちです。彼らがときおり示す否定的な感情や行動は、この発達段階に本来備わっているものでは決してありません。

したがって、検討すべき大切な課題は、しばしばジュニアユースを特徴付けると考えられている、好ましくない行為の原因が何なのかを考えることです。これに関して、特に注意して考慮すべき要因が二つあります。まず、世界中の地域で見られる否定的な社会的勢力が様々な社会的な病<sup>やまい</sup>を蔓延させる結果となり、若者が自分自身や社会をどう捉えるかに大きく影を落としている、という点です。更に、自分たちに対して大人がどう振る舞うかに、ジュニアユースが大きな影響を受けていることも要因の一つではないでしょうか。この年齢層のジュニアユースは多くの深遠な事柄について見抜く力を得ていますが、大人は彼らをいつまでも子ども扱いはすることがあります。また、大人がときどき示す言動の不一致は、人生を方向づける基準を求めている若者にとって、混乱の原因になる場合もあります。

否定的な社会的勢力がジュニアユースに与える影響を強調しましたが、だからといって、若い者は脆くて弱いというわけではありません。助けがあれば、ジュニアユースはこれらの勢力に立ち向かうことができます。魂と知性の能力を高め、これらの困難を乗り越える能力が備わっているだけでなく、新しい社会作りに貢献する参加者になることすらできるのです。それで、「彼らの関心を引き、ティーチングと奉仕のための能力を形成させ、年上のユースたちと係わったり交友を深めたりさせる」<sup>14</sup>取り組みを始めるよう、万国正義院は要請しています。ジュニアユースは自分たちの精神的資質を伸ばし、学びと意義ある行動への意欲が刺激されるような環境を必要としています。思春期の初期にあるジュニアユースの気持ちや経験に共感できるみなさんのようなユース達が、このような環境を作り出すために果たす役割は重要です。ジュニアユースにとって、ユースは憧れの先輩であり、彼らはみなさんをしばしば行動の模範として見なすでしょう。なので、ジュニアユースが道徳基盤を強めるのを援助するという神聖な義務を果たすことが、今、ユースに求められているのです。

このため、世界の多くの地域に住むバハイユースとその友人達は、ジュニアユース・エンパワーメント・プログラムのアニメーターとして奉仕を始めています。このプログラムは「崇高な存在であるという真のアイデンティティを奪おうとする力と戦い、また、社会に貢献するために必要な手段」<sup>15</sup>を若者に与えます。このプログラムでは、同年代の仲間たちが喜びと友情に満ちたグループを作り、互いを支えあう環境を提供します。ジュニアユースは、さまざまな基本的概念を紹介するテキストを勉強します。その援助により、精神的感知力が鋭くなり、社会を形成している勢力を分析する洞察力が深まり、表現力が向上します。その結果、プログラムの参加者は自分を取り巻く世界を理解し、明確に描写できるようになります。そして、奉仕活動を通して、社会の平和に具体的に貢献することを共に学びます。

ジュニアユース・プログラムの各テキストに取り上げられている考え方は、参加者の心の中に育っている道徳的構造を強化し、人生と社会に対する希望を養います。アニメーターは、この過程においてジュニアユースの友となり、支え、導きます。アニメーターは、参加者を子ども扱いすることなく、新しい文明を建設することに貢献するための能力を発達させている若者として扱います。共同体のために喜んで奉仕することを奨励する環境を育む一方、促進している活動が知らない間に欺瞞や利己的な態度につながるよう、注意します。参加者の親とアニメーターの相互の関わりは、提携的な精神を育み、グループで築かれた肯定的な環境を家庭や地域全体に広げる助けにもなります。

このプログラムは、アニメーター自身にも、大きな影響を及ぼします。自分がかつてジュニアユース・グループのメンバーであったかどうかに関わらず、アニメーターは、みんな、このプログラムが持つ道義的な目標を形成する力に影響されます。アニメーターが自分の精神的成長のために努力する度合いに応じて、ジュニアユースへの奉仕は効果的になります。アニメーターは、一般社会にあふれる既成概念が自分の心に及ぼす影響力に警戒しつつ、バハオラの教えが自分の考えと行動に及ぼす影響をも常に意識しています。また、アニメーター同士の付き合いの中でも、共同体の中でも、「互いに奉仕の高みに達する」<sup>16</sup>ために助け合うことに最大の喜びを感じる気持ちを共有するよう努力します。

上記の文章の各段落に含まれる考えについて少し話し合ってから、小グループに分かれ、下記の問いについて考えてください。

- a. 上記の文章は、ユースに影響を及ぼす社会的勢力が、ジュニアユースにはさらに大きな影響を及ぼすと示唆しています。自分の地域のジュニアユースについて考え、彼らが破壊的な勢力にどのように影響されているか、また、その破壊的な勢力が生み出す行動パターンにはどのようなものがあるか、話し合ってください。
- b. みなさんの中には、ジュニアユース・グループが既に存在する地域に住んでいる人がいるかもしれません。また、実際にアニメーターをしている人もいるかもしれません。その場合、プログラムに参加しているジュニアユースが、精神的に、知的にどのように成長しているか、また、家族と地域の進歩に貢献することをどのように学んでいるか、描写してください。
- c. ジュニアユース・プログラムの各テキストは、若者が道徳的な基本的概念を理解する手助けとなります。たとえば、「確証のそよ風」は、自分と地域の進歩のために努力をすれば、神が確証を下さるという概念の理解を助けます。プログラムの他のテキストを三冊以上選んで、そこで取り上げられている主要概念について話し合ってください。それらの概念は、ジュニアユースが自分たちと周りの世界をどう捉えるかに、どのように影響すると思いますか。
- d. 上記の文章は、アニメーターとして活動することとユース自身の精神的成長との相互関係を強調しています。ジュニアユース・グループをサポートする者として、ユースはどのような精神的資質や態度を示すよう努めるべきでしょうか。また、奉仕することが精神的資質や態度の変化をどう助けるか、話し合ってください。

---

<sup>9</sup>万国正義院からすべての全国精神行政会にあてられたメッセージ、2011年12月12日、第21段落

<sup>10</sup> アブドル・バハ、「万国平和の普及」(英語版、第3段落)

<sup>11</sup>同上

<sup>12</sup> アブドル・バハ、「聖なる哲学」(英語版、'Abdu'l-Bahá on Divine Philosophy, Boston: Tudor Press, c.1918, p. 132)

<sup>13</sup>万国正義院、世界中のバハイへあてられたメッセージ、2010年レズワン、第16段落

<sup>14</sup>万国正義院、世界中のバハイへあてられたメッセージ、2000年レズワン、第26段落

<sup>15</sup>同上、第16段落

<sup>16</sup>同上、第20段落

3

相互支援と援助の育成

下記の文章を全体グループで読んでください。

これまでの2つのステートメントから明らかのように、現代のユースは、社会の改善に貢献するという大きな責任の担い手です。また、自分より年少の社会メンバーが新しい文明の築き手となれるよう、それに必要な精神的・知的能力を得られる環境を作ることはユースの責任でもあり義務でもあります。これが大きな事業であることは疑いもありません。やる気を奪い、目的を挫こうとする強力な社会的勢力に対抗するために、ユースは尽きることのない神の援助に頼ることができます。また、仲間とのきずなを深め、社会を変革する力が増す地域社会の中でお互いを支え、助け合う雰囲気を作り出す能力を向上させなければなりません。

これから読むのは、4人の人物による架空の会話です。仲の良い友達で、サンパとサンジブという男の子が二人と、キャロラインとラエンという女の子が二人登場します。彼らは、メトロポールという都市の郊外にある、スプリングタウンという所に住んでいます。町の人口は4000人程度です。スプリングタウンの住人の多くは15～30歳の年齢層に属します。サンパは18歳、ラエンは19歳で、高校を卒業したばかりです。サンジブとキャロラインは二人とも21歳で、メトロポールにある、大きな大学に通っています。サンパ、サンジブ、ラエンは、子どものころからの幼馴染みで、キャロラインは最近、3人の友達になりました。幼馴染みの3人は、町の郊外の同じ地域の出身で小・中・高、共に同じ学校に通いました。そしてこの3年間は、ジュニアユースのアニメーターとして共に奉仕をしています。現在、4人はスプリングタウンで、計4つのジュニアユース・グループのアニメーターをしていて、50人程のジュニアユースが参加しています。共に奉仕をすることで彼らの友情は強まり、自分達の活動や地域の発展に関していつも熱心に会話しています。ラエンとサンジブはバハイです。

\*\*\*

「『奉仕の道を歩む』ってどういうことなのか、僕らはもっと考えなきゃいけないね」。サンパが会話を始めました。「奉仕の道を歩むっていうのは、つまり自分が何かをすることだ、っていうのは分かるんだけど、それだけじゃなく、どのように奉仕をするかということも重要だと思うんだ」

ラエンがすぐに答えました。「私は、みんなと一緒に奉仕できて、すごくありがたいと思うわ。一人で奉仕するのは難しいもの。みんなのようないい仲間がいるから、奉仕を続ける励みになるの」

「そうね。でもそれだけじゃないわ」。キャロラインが続いて言いました。「一緒に奉仕することで、ネガティブな行動パターンを回避できていると思うわ。私は、みんなと奉仕を始めてから自分の色々な面を変えなくちゃいけなかったんだけど、一人では変えられなかったと思う」

サンジブが感慨深そうにキャロラインを見て、微笑み、こう言いました―「僕は、万国正義院が言ったことを思い出すよ。奉仕の道は、『一人か二人の人だけが知り、経験できるのではなく、多くの人が、経験できるのです』<sup>17</sup>という言葉なんだ。これって、奉仕を通してたくさんの人が共に進歩し、成長できるという意味だと思う」

キャロラインが言いました。「私は奉仕の道を歩み始めたばかりだけど、和合があるのとないのじゃ、全然違うね。和合というのは、けんかをしないってだけじゃなく、同じ物の見方をしてるってことよね。同じ目標を持って、同じ方に向かって進んでるの。これまで、善良で頭のいい人たちにたくさん出会ってきたわ。考え方も素晴らしいし、動機も純粋よ。だけど、共に前進できない。統合されたビジョンがないから」

\*\*\*

「和合には、人それぞれが違うペースで進むことを受け入れるという面もあると思うわ」と、ラエンが言いました。そして、にっこり笑って、サンジブに尋ねます。「万国正義院はそれをどんな風に言ってたの、サンジブ？」サンジブは、はっきりとした声で丁寧に答えました。「その道は、『異なる速度と歩幅の人も歩むことができます』<sup>18</sup>」

「『異なる速度と歩幅』かあ」、ラエンがつぶやきました。「ただ足が速いからというだけで、一人で突っ走るのは簡単よね。だけど立ち止まって、振り向いて、後ろにいる友達を支えに戻るとは、本当に愛情と忍耐がなきゃ出来ないよね。そうじゃなかったら、どうやって一緒に前進できるの？」

「それに、ラエン、気をつけなきゃいけないのは、今、一緒に奉仕をしている仲良しの友達だけを考えるんじゃなくて、まだこの道に加わっていない人たちも励まして、誘わなくちゃいけないってことね」と、キャロラインが言いました。「サンジブが誘ってくれなかったら、私は今、ここにいないでしょうね。世の中には、社会に貢献したいと心から思っているユースがたくさんいるわ。でも、何をどうしたら良いのかわからない人が多いもの。より良い社会を築きたいと思っている他のユースたちとも、長続きする真の友情を築くことを学ばなくちゃいけないわ」

\*\*\*

「キャロラインの言う通りだよ。誠実な努力をして、一生懸命、頑張ることは大事さ。だけど、奉仕の道を歩みたいと思っている他の人たちを助けられなかったら、持続可能な変革を社会に起こすことはできないよ」と、サンジブが言いました。「そうであるなら、個人として、そしてグループとして、僕たちは自分たちの資質や態度についてよく考えなきゃいけないね」

「その通り」とサンパが言いました。「世の中の多くの取り組みが、それに携わる人たち自身の利己心のせいで本来の目的から脱線してしまっている。それで時には、お互いの短所ばかりが目について、努力している人たちを励ますどころか、非難し始めることもある」

「非難は誰のためにもならないわ」、キャロラインが言いました。「むしろ、成長の邪魔をするわ。でも、今、世の中ではそれが当たり前。ときどき、誰もが、お互いを非難しているみたいに見えるわ」

「問題が人を非難することではないこともあるよね。むしろ、自分の短所にとらわれすぎて、動けない状態になることもある」。サンジブが言いました。

サンパが続けます。「誰も自分を無力だと思ふべきじゃない。神様は必ず助けてくださるから。でもこれは、本当に、心から信じないといけないよね。そして、周りには友達もいる。一緒に笑ったり楽しく過ごしたりすることだけが友情じゃない。互いの進歩を心から喜ぶこと、そして、互いが成長できるよう実際に助け合うこと、これが友情だ」

「本当の意味で友達になって、互いを常に励まし合っていると、最初は不可能に思えたことも可能になってくる、そう思うわ。そして、奉仕をすることが純粋な喜びになって、友達の輪も広がっていくわ」と、ラエンがつけ足しました。

\*\*\*

4人は会話の内容について熟考し、しばしの沈黙が訪れます。互いに顔を見合わせると、心からの友情でつながっているという強い感覚で包み込まれ、みんなが微笑みます。みんな、何かを言いたそうですが、ためらっています。その中でも、サンジブが一番、物言いたげです。

「いいから言いなさいよ、サンジブ」。キャロラインが言うと、みんなが笑い出しました。

「さっき話していた事はどれもすごく奥深いから、こういうことについて、もっと考えるべきだと思ってたんだ。例えば、僕ら自身を例にあげるとさ、僕らはみんな、アニメーターだよ。アニメーターは、熱意とやる気とエネルギーに溢れたジュニアユースのグループを、3年間、時にはそれ以上サポートしなくちゃならないけど、それには何が必要か考えてみてよ。それだけでなく、他のアニメーターたちとも良い関係を築いて、それを維持して、常に助け合っていなくちゃならない。もし僕たちに学ぶ準備ができてなかったら、こういうことがきちんとできるようになるだろうか」

サンジブが言ったことで、みんなは再び考え込みます。しばらくして、サンパが言います。「キャロラインの言ったことが出発点だと思う。僕らが誠実ならば、神様は助けてくださることを絶対的に信じることだよ」

「それから、謙虚でなくてはならないわ。自分が全てを知っているわけじゃないってことを受け入れなくちゃ」。ラエンが付け足します。「私たちはみんな、学ぶ方法を学んでいるんだと思うわ。頻繁に集まって勉強したり、ジュニアユース・グループのことで互いに助け合ったり、定期的に会って振り返りや協議をしたりすること。これらはとても助けになるわ」

さらに、キャロラインが言います。「それから私たちは、お互いの言うことをよく聴くということも学んでいると思うわ。友達がよく言ってたわ。——『聞こえてたのは知っているけど、あなた本当に聞いてた？』って。人はときどき、雄弁であることの良さは強調するけど、偏見を持たずに人の話をよく聴くことについてあまり重要視しないわ。お互いの言うことをよく聴けば、互いへの支え合いももっと良くなると思う」

サンジブが言います。「聴く姿勢は協議の仕方とも関係するよ。アブドル・バハは、こうおっしゃっている。『協議の目的は、真理の追求でなくてはならない』<sup>19</sup>、と。それから、『人は、自分の意見について落ち着いて、冷静と平静を持って、よ



く考えなくてはならない』<sup>20</sup>、ってね。僕たちは『個人的見解をただ述べるだけ』<sup>21</sup>ではなくて、心から真実を知りたいと思うことも学びの一部だと思う」

「もちろん自分の意見を持つことはいいことだけど、他の人の意見をおさえつけるのではなく、喜んで受け入れるような言い方で表現しないといけないわね。リフレクションの会合で集まって話し合う時、こんな風を感じるわ。みんなの考えが大切にされていて、皆がどう考え、感じているかを本当に知りたいと思っている。私もそんなふうになれるように学んでいるところよ。これって本当に素晴らしい！」と、キャロラインが言いました。

\*\*\*

4人はそれから、どうすればもっと効果的にお互いを支えられるかについてさらに話し合いました。友達との交流の質を高めるにはどうすべきか、ということについて考えます。「今は、テクノロジーがどんどん発達して、とても洗練された時代になったわ」——考え込んで、ラエンが言います。「人によっては、現実の友達よりもネット上の友達の方が多いくらいよ。でも、ネット上では、それぞれ異なる価値観に固執する人と交流することも多いから、結果的に矛盾した生活を送ることになるわ。バハオラが常に愛情深く私たちを見守ってくださることを心に留めていたら、そういった交流の質も高められると思う」

「この前、人はときどき、隣に座っている人と会話するより、地球の裏側にいる人とメールすることを好むって話を友達としていたんだ」。サンバが言います。「実際に、自分の地域社会をより良いものにしていきたいという望みと使命感を共有できる仲間との真の友情に代わるものはないよ。これが、今日の話合いで僕が学んだ一番重要なことのひとつだね」

\*\*\*\*

会話内の各セクションに出てくる考えについて簡単に話し合った後、小グループに分かれて、次の問いについて考えましょう。

- a. 相互支援の環境を生み出すには、たくさんのユースが真の友として協力しながら、地域社会の変革のために共に活動するというビジョンが必要です。あなたのクラスター又は地域で、そのようなビジョンを実現するには、どうすればいいですか？ユース間の会話はどれくらい重要でしょうか。そういった会話の目的や内容は、どんなものになるでしょうか。
- b. 相互支援とは、お互いが奉仕活動をするのを援助することに限定されるものではありません。人生の他の局面における進歩を助けることにも当てはまります。相互支援を必要とする局面には、他にどのようなものがありますか？例えば、信教の法や掟に沿って生活すること、教育、仕事、結婚などが挙げられます。
- c. ユースは多くの時間を共に過ごします。そしてその一部は、必然的に娯楽やレジャーに使われます。しかし、進歩を遂げるためには、些細な事柄に時間を使いすぎないようにすることが大切です。また、さまざまな空間における人との交流の質を高めることも重要で、これには電子メディアも含まれます。これは、どうすれば達成できるでしょうか？

- d. 上記の会話は、共に奉仕をする者らの間に強い友情の絆を育むことの重要性を強調しています。真の友情とはどのような性質を持っていると思いますか？また、どんな友情関係が本当の進歩につながり、どんな友情関係が有害なのかをどうやって見分けますか？

---

<sup>17</sup>万国正義院からすべての全国精神行政会にあてられたメッセージ、2011年12月12日、第4段落

<sup>18</sup>同上、第4段落

<sup>19</sup> アブドル・バハ、「万国平和の普及」（英語版、第2段落）

<sup>20</sup>同上

<sup>21</sup> 同上、第一段落

4

ユースと共同体作り

次の文を全体グループで読んでください。

前セッションでは、ユースが互いに助け合い、社会への奉仕のためにともに歩むことの大切さについて話しました。その会話を通して、新しい社会を築くという作業は、「個人の率先力と共同体が協同行なう活動とを統一の取れた行動のパターンに織り込む」<sup>22</sup>ことができるユースの増加と、その人たちの誠実な努力にかかっていることが明らかになりました。この点に注目しながら、活気ある地域社会を作るためにできる貢献について考えてみましょう。それは、近隣地域や村においてかもしれませんし、また、社会を変革したいと願う人々が集まるその他の環境であるかもしれません。

この問いについて考察するために、世界中のバハイ共同体が取り組んでいる活動の枠組みの要素について検討してみましょう。バハオラの教えの精神に基づいた、バハイ共同体の新しい社会作りの活動の多くは、クラスターの単位で行われています。クラスターとは、管理のしやすい地理的な区分をさす言葉で、構成単位は村であったり、小さな町であったり、大都市とその郊外であったりします。各クラスターの掲げる主な目標は社会を変革する過程における三つの主役である、個人・共同体・機構を強化することで、ここにバハイの教えを適用することができます。この活動には、インスティテュート・プロセスを通して、精神的・社会的進歩を促進する能力を持つ人々の数を増やすこと、「個人と家族と機構が…その境界線の内外に住む人々の安寧という共通の目的のために共に働く」<sup>23</sup> 活気ある地域共同体を作ること、奉仕したいという熱意を持つ多くの友人たちのエネルギーを動かし、方向づけ、統合する能力を持つ機構を開発すること、などが含まれます。それぞれのクラスターは、地域共同体や機構の力や成長の度合いに応じて、また、その社会変革のために活動する人々の数や有効性に応じて、必然的に異なる成長段階にあるに違いありません。一部のクラスターでは、バハイの新しい社会作りの活動がまだ始まっていないところもあるでしょう。

クラスターは、異なった困難に直面することでしょう。住民が同質な背景を持つ村落地域で暮らす人もあれば、多様な背景を持つ人々が集まる大都市の一角で暮らす人もいます。強い共同体意識で特徴づけられているところもあれば、明らかにそれが欠如しているところもあります。また、クラスターといっても、同じ地域に住んでいるのではなく、共通の目的でつながっている人々を指す場合もあります。たとえば、同じ大学で勉強している、特定の物理的場所に限定されない専門職や社会的団体のメンバーである、などです。新しい社会を築くために、友人たちはこれらの環境や空間で、バハオラの教えを適用する能力を高めようとしています。人類のこの発展段階において、構成メンバーによる献身的な無私の奉仕がなければ、どんな社会であっても、精神的・社会的進歩を遂げることはできないでしょう。

みなさんが奉仕の道を歩む努力について考える時、どうすれば「町や村に活気あふれる共同体生活を育んでいく」<sup>24</sup>ことができるかを考えることは重要です。次に続く文章とそれに関する問いは、バハオラの人類に対するビジョンをますます反映させる共同体を建設するためにできる貢献について協議するきっかけになるでしょう。

\*\*\*

マンハロの東部、ヘリというクラスターにジャンボという所があります。ミューズ山の裾野に位置する人口約3,000人の大きな村です。それは美しい村で、見事なジャカランダの樹が立ち並び、曲がりくねった通りがあります。ジャカランダの樹は紫の花で、満開になるとそれは見事な風景です。青々と生い茂った平原に咲く花は、村の生活に活気をもたらします。そこに住む多様な人々のうち、5分の1が11歳以下の子どもで、10分の1がジュニアユースです。住民は様々な部族から成り立ち、古くからその村で共に暮らしてきました。さらに、村人の半分以上が30歳以下で、いろいろな意味で活力に溢れた人たちの集まりです。

山を少し登ったところに、ジャンボの村を見下ろすように白壁に囲まれた教会が立っています。山のふもとには、村の小学校と中学校、高校があります。この二つの間に、村の全てがあります。こじんまりとした郵便局、塀で囲まれた裕福な人々の邸宅、赤い屋根の大きな病院、賑やかなスポーツセンター、品揃えの良い店がそろった大きな市場、そして、学校から一番近いところには、ジャンボの住民のほとんどが住む、不規則に広がる団地があります。ジャンボの住民は、みな働き者です。それぞれの家族が一画の農場を持っていて、鉄分を多く含む葉野菜やおいしい根菜などを育てています。村の小規模な経済を潤しているのは、10キロ北にある銅山で働く男性たちの収入と、蒸し暑い下の谷の住民からの訪問者です。曲がりくねった大通りには、レストランや酒場が新しく建ち始め、その賑やかな音楽が、ジャンボの平穏な環境を変え始めています。

ジャンボは近隣の村と多くの面で異なりますが、最大の違いは、住民の三分の一近くが、地域社会のための活動に参加していることです。村に住む人々は、より良い社会を築くために、バハオラの教えをどのように活かすかを忍耐強く学んでいるのです。熱気を帯びた村の住民の会話に耳を傾けると、分かることがあります。それは、村人の多くがインスティテュート・コースを通して神の言葉を勉強したことにより、理解を深めたいという渴望と、奉仕したいという願望を得たということです。例えば、自宅を祈りの会のために開放したり、子どもたちは十代のユースに面倒を見てもらい、毎週、木の下や家や教室に集まって、心の教育を受けています。ジュニアユースと若いアニメーターたちは、常に、何かしらの活動をしています。時には、グループで熱心にテキストを読んで学習をしたり、時にはごみを運んだり、あるいは病人を訪問したり、木を植えたりと、思いつく限りの方法で奉仕しています。笑顔で輝いているジュニアユースの親たちの顔が、ある事を物語っています。急速に変化する社会に子ども達が立ち向かえるという希望がわき、絶望に取って代わっているということです。日々の言動の端々から、ジュニアユースの心に道徳的な勇気が増していることが分かるからです。男女を問わず、子ども、ジュニアユース、ユース、成人などの、何かの活動をしている人たちが集まる時には、喜びがあふれています。また、活動をより効果的にするための真剣な協議も行われています。

ジャンボでは、いつも互いへの励ましがあります。インスティテュート・コーディネーターと地方精神行政会は、自分の役目を果たそうと立ち上がる人々を支援するため、他の地域のリーダーたちと共に活動しています。年齢や性別にかかわらず、ジャンボの成長のために活動する人々をどう育成するかについて、また、共同体としての活動にまだ参加していない人々をどう援助するかについて協議しています。

ジャンボの転機は、五年前にやってきました。訪問中の大陸顧問補佐との協議の後、数人のバハイたちは、自分たちだけでは、バハオラのビジョンに描かれているような共同体を作ることはできないと気付きました。「私たちは、ジャンボを変えるために努力する準備ができていない人々を探さなくてはならない」と、考えました。バハオラの教えの適用によって何をえられるか、近所の人々と会話をした結果、ジャンボについて心配し、援助をしたいと思っている人がたくさん見つかりました。スタデイサークルに参加した後、何人かが子どもクラスを教え始めたり、お祈りの会を開いたりしました。しかし、すぐに多くの障害にぶつかりました。和合の絆はまだ弱く、しばしば口論が起こったのです。励ましを受けることもなく、ほったらかされた人々は熱意を失いました。そして、銅山が開鉱すると最も頼りにしていた人々も仕事で忙しくなり、共同体の活動を続けることができなくなりました。しかし、一部の少人数の間は団結を忘れず、この試練の中に、いつまでも続く真の友情を築くチャンスを見出しました。

三年前に、ジャンボに極めて重要な出来事が起こりました。ジュニアユース・グループのアニメーターを育てるためのインスティテュート・コースに参加した人々が、興奮さめやらぬ様子で帰ってきたのです。その人々は多くの家族を訪問し、思春期の始めの時期について、バハイがどう考えているかを話し、若者が社会の有害な勢力に対抗するために必要な能力とは何かを共に探り、ジャンボの若者が精神的に成長できる環境を作る方法を、親たちと一緒に考えました。すぐに20人の熱心なジュニアユースたちが参加する二つのジュニアユース・グループができ、活動を始めました。それから、彼らは、ユースに声をかけました。「ジュニアユースは、みなさんを慕っています。みなさんは、ジュニアユースという年齢層について理解しているから、彼らを助けるのに一番適しています」と、話しました。また、アニメーターとして奉仕をすることが、ユース自身の成長を助けるという点についても話しました。「ジュニアユースを助けることで、あなたたちは、自分自身の精神的・知的能力を向上させることにもなるのです。より良い共同体を建設することに一緒に貢献しましょう」と、説明しました。

最初はほんの数名のユースしか参加しませんが、友人たちは辛抱強くユースと関わりを持ち続けました。会話を続けることにより、前向きな返事をしてくれる人の数が増え始めました。やがて、多くの若者がアニメーターとなるトレーニングを受けました。プログラムの持つ力が明らかになるにつれ、初めは懐疑的だった地域の指導者たちでさえ、ジュニアユースに力を注ぐことがジャンボの未来と幸福のために重要だと納得しました。多くの人がグループの集まりのために家を開放し、資源や才能を提供しました。学校では、関心のある高校生が、年少の友達を集めてグループを始めることができるよう、特別な支援が行われました。

このように、共同体は力を合わせて前進しました。時間がたち、ジュニアユースがプログラムを終了するにつれて、彼らの多くがインスティテュート・コースに進むことを選択しました。そうしたユースの一部は、子どもクラスを教えることで地域の暮らしに貢献する道を選びました。アニメーターとして奉仕を始め、ジュニアユース・プログラムの発展に貢献したユースもいました。インスティテュート・コースでの学びから生まれる奉仕は、長期的に行動する決意を伴うものであると確信する人が

多くなり、学習に参加するようになりました。地域で行う礼拝も増え、目的意識が強まりました。今や、ジャンボの住民の会話はジャンボに関する事柄だけでなく、クラスター内の他の村の成長をどう援助できるかにも及んでいるのです。

\*\*\*

上記の話は、バハオラの教えに影響を受けた共同体作りに貢献しようとするユースが心に留めておくべき原則を説明しています。前述の通り、ユースが共同体作りに貢献できる機会は様々です。ほとんどの場合、近隣地域や村で活動することが可能でしょう。自分の大学の学生や教授と活動する人もいるかもしれません。集団で行動に参加することへの受容性が低い地域に住んでいる人は、もっと広い地理的範囲で同じ関心を共有する人たちと活動することになるかもしれません。状況が何であれ、次の問いは、自分の住む地域の物質的・精神的改善に貢献するためにユースが取れる具体的な行動について考えるのを助けてくれるでしょう。

上述の各段落に出てくる考えについて簡潔に話し合った後、小グループに分かれ、次の問いについて話し合ってください。

- a. 上記の架空の物語は、物理的・社会的空間としてのジャンボの描写から始まっています。自分の住んでいる地域社会の状態、住民、物理的空間の構成、社会的機構とその機能について理解することは重要です。これらの点を踏まえて、自分の住んでいる地域について描写してください。地図を描くのもいいでしょう。
- b. 上述の話で説明されているように、バハオラのメッセージによって刺激を受けた共同体作りの過程には、その中心に、ババイ信教の教えと、それが住民の生活にどういう意味合いを持つかに関する会話の展開がなくてはなりません。ますます多くの人々がトレーニング・インスティテュートのコースを受け、祈りの会、子どもクラス、ジュニアユース・グループ、スタディーサークルといった、核となる活動を始めるにつれて、このような会話の機会も増え、理解も深まります。より多くのユースがこの様な会話をし、欠かすことのできない学びと奉仕に関われるよう励ますために、何ができますか。
- c. 前のセッションで話し合ったとおり、ジュニアユースの内面的資質を高めることは、社会の進歩に必要な精神的・知的能力を持った若者を育てるために不可欠です。みなさんが住んでいる地域社会でのジュニアユースの成長に関して検討してみましょう。より多くのユースが、ジュニアユースを支援するための活動を始めるのをどう助けることができるか、考えてみましょう。
- d. 共同体作りには、常に学びが必要です。クラスター・村・近隣地域の住人たちと継続的に対話することで、学びはより深まります。そういった対話を通して、ビジョンが明確になり、能力の高まりが確認でき、困難や障害が特定され、次に取るべき行動案が決まり、住民の間に愛と親睦の絆が強められます。自分の共同体における協議の質が向上するように、ユースはいまどのような貢献をしていますか。あるいは、どのような貢献をすることができるでしょう。

- e. 共同体は、文明のひとつの単位を構成します。そのメンバーや機構は「その境界線の内外に住む人々の安寧という共通の目的のために共に」<sup>25</sup> 活動します。つまり、成長している共同体やクラスターに住むユースは、まだ成長が進んでいない、他の共同体やクラスターが持続可能な方法で進歩し成長し始めるのを助けることで、新しい人類文明を築くというバハオラの教えの影響力を広げることができるのです。この重要な点について、考察してください。

---

<sup>22</sup>万国正義院、2007年レズワンメッセージ、第3段落

<sup>23</sup>万国正義院、1996年レズワンメッセージ、第25段落

<sup>24</sup>万国正義院、2010年レズワンメッセージ、第7段落

<sup>25</sup>万国正義院、1996年レズワンメッセージ、第25段落

5

文明推進への貢献

全体グループで次の文章を読んでください。

これまでに読んできたステートメントは、バハオラの新しい社会に関するビジョンを認識することで、若者の生活がいくつかの局面でどのように変わるのか、皆さんが考えるのを助けてくれました。最後のステートメントの学習を始める前に、ここまででみなさんの理解がどのように深まったか、共有するといいいでしょう。

バハイとその友人たちによる共同体作りの努力は、利他的な人たちによる、ただの善良な社会貢献活動ではありません。これらの努力は、人類は今、歴史的に非常に特別な時期に生きているという理解に基づいています。人類は、子ども時代と青春時代に似たような発達段階を経験し、今は成熟期の始まりにあります。人類の発達を押し進めているのは、崩壊と統合という二つの分離できないプロセスです。崩壊のプロセスは、成熟しつつある世界のニーズに対応できずに古びた秩序が崩壊していく様子と、それに伴う暴力や戦争、汚職の発生に見て取れます。これは多大な混乱と苦しみの原因となりますが、同時に、人々の間の和合を遮る障害物を取り除くことにも貢献します。統合のプロセスは、バハオラの到来により放たれた精神的な力に関連しています。これらの力は、一方では、世界中でますます多くの人々が和合と進歩のために努力するよう、影響を及ぼしています。他方では、バハイとその友人たちの意識的な努力を通じて、社会を徐々に再形成しています。

崩壊と統合のプロセスの目的は、これまで誰も見たことのないような世界的文明の創造です。その究極の目標は、精神的にも物質的にも進歩した地球社会、人類が皆一つに結ばれた平和な世界を築くことです。アブドル・バハは、こう述べておられます。

物質文明はランプのようで、精神文明はランプに光を灯す灯りのようである。物質文明と精神文明が統合されれば、灯りとランプが同時に手に入り、結果は完璧である。<sup>26</sup>

新しい文明の建設には、社会がどのように組織されるかということと、個人の行動や振る舞いの両方に変化が必要です。これに関して、バハオラの教えは「人類の性格を根本から一変させる」ことを目的としており、「その性格の転換は、外面的にも内面的にも現われ、また、人類の精神生活にも外的環境にも影響を及ぼすもの」なのです<sup>27</sup>。

ならば、文明建設のためには、世界のすべての人々、いや実に、あらゆる社会に住む人々がひとつである、ということを受け入れることが不可欠です。この極めて重大な真理の認識は、共同体、そして、社会全体の生活に対する多くの示唆を含んでいます。この日、世界の全ての人々が、唯一にして真実なる神のご好意とご慈悲とに等しく<sup>あずか</sup>与っています。そして、その多様性において、新しい世界を創り出すことに貢献する権利と義務を共有しています。共同体内のメンバーの関



係、そして彼らと機構の関係が愛と正義により特徴づけられるならば、全ての人は神により与えられた属性を、社会を善くするために使う機会を与えられるのです。精神面の知識と科学的知識の両方が全ての人に開かれるならば、共同体のメンバーは、それらの知識を集団生活の中で応用する方法を共に学ぶことができます。これは、これまでのステートメントでも取り上げられた、バハイの共同体作りの活動に関連しています。これらの活動は世界中の多くの文化や近隣や村で活発に展開しています。彼らが培う文化に見られる変化は、ますます多くの人たちが、この日の神の教えを、次々とあらゆる共同体での生活に適用することによって、いかに新しい社会が築かれるかということの証明です。

文明の発展に貢献したいと望む個人にとって、その生活に与える示唆も意義深いです。人は、進歩に効果的に貢献するための特質や態度や能力を身につけようと努力し、人生の様々な局面——教育、仕事、結婚、家庭生活——に強い使命感をもって臨みます。そのような人は、信教の高い理想に合わせようとあらゆる努力を尽くします。あらゆる種類の偏見を取り除くことを学び、高潔性の高い基準を守り、他者と交流する全ての機会において廉直性を示すことは、人が社会を変えるための効果的な主体者になることを可能にします。「個人的に成長し、バハイの理想を守る努力において」<sup>28</sup>、人は、高い目的意識を持った共同体に身を置くのです。それは、真の和合があることにより、あらゆる年齢層の人々が、精神的・道徳的・知的優秀さをさらに高めるのを互いに助けあう環境です。

この視点から見れば、バハオラのメッセージが持つ、新しい世界を創造する可能性に気付いている人は、それから得られるインスピレーションを世界の人々にもたらすこと、そして、新しい文明を意識的に築いていく人としての義務を果たすために人々が立ち上げられるよう援助することに、疑いなく大きな喜びを見出すでしょう。

\*\*\*

上述の各段落にある考えを簡潔に話し合ってから、小グループで、次の問いについて考えてください。

人は色々な活動分野を通して、バハオラの教えを適用する方法を学び、新しい文明を築くことに貢献できます。以下の問いは、仕事と教育、結婚と家庭、そして地域社会が、文明建設とどう関係しているか考える上で役立つでしょう。

各グループで、次のどれか一つを選んで話し合ってもいいでしょう。

- a. 教育、知識の習得、仕事は、人が文明に貢献する上で不可欠です。様々な社会的状況に置かれているユースは、どうしたら確実に最も効果的な教育を受けることができますか？人の仕事や専門職は、どうやって文明建設に貢献する手段となりますか？逆に、どうしたら、障害になり得ますか？
- b. 新しい社会づくりに意義ある貢献ができるような結婚と家庭生活の準備は、どうやったら適切にできますか？

- c. 真の文明の建設者としての特質や能力を伸ばすことができるよう、住民を援助するには、地域社会はどのような性質をもってはなりませんか？そのような共同体の住民同士の関係、あるいは住民と機構との関係は、ユースが、例えば純潔で清らかな生活を送る決意を強めるよう援助するには、どのようなものでなくてはなりませんか？
- d. 新しい文明の建設には何世紀もの重労働を要するでしょう。しっかりとした基盤を作るには、大勢のユースの力が不可欠です。新しい世界の建設の大部分を背負っているユースが、生活の様々な面全てにおいて進歩できるよう、お互いを効果的に支援し合うには、どうすればよいでしょう？

---

<sup>26</sup> アブドル・バハ、「万国平和の普及」（英語版、第2段落）

<sup>27</sup> バハオラ、「確信の書」、270 段落。

<sup>28</sup> 万国正義院の代理から3人の個人にあてた手紙、2013年4月19日。